

木材需給動向について (九州地区)

令和3年5月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（九州地区）

ウ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・九州地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

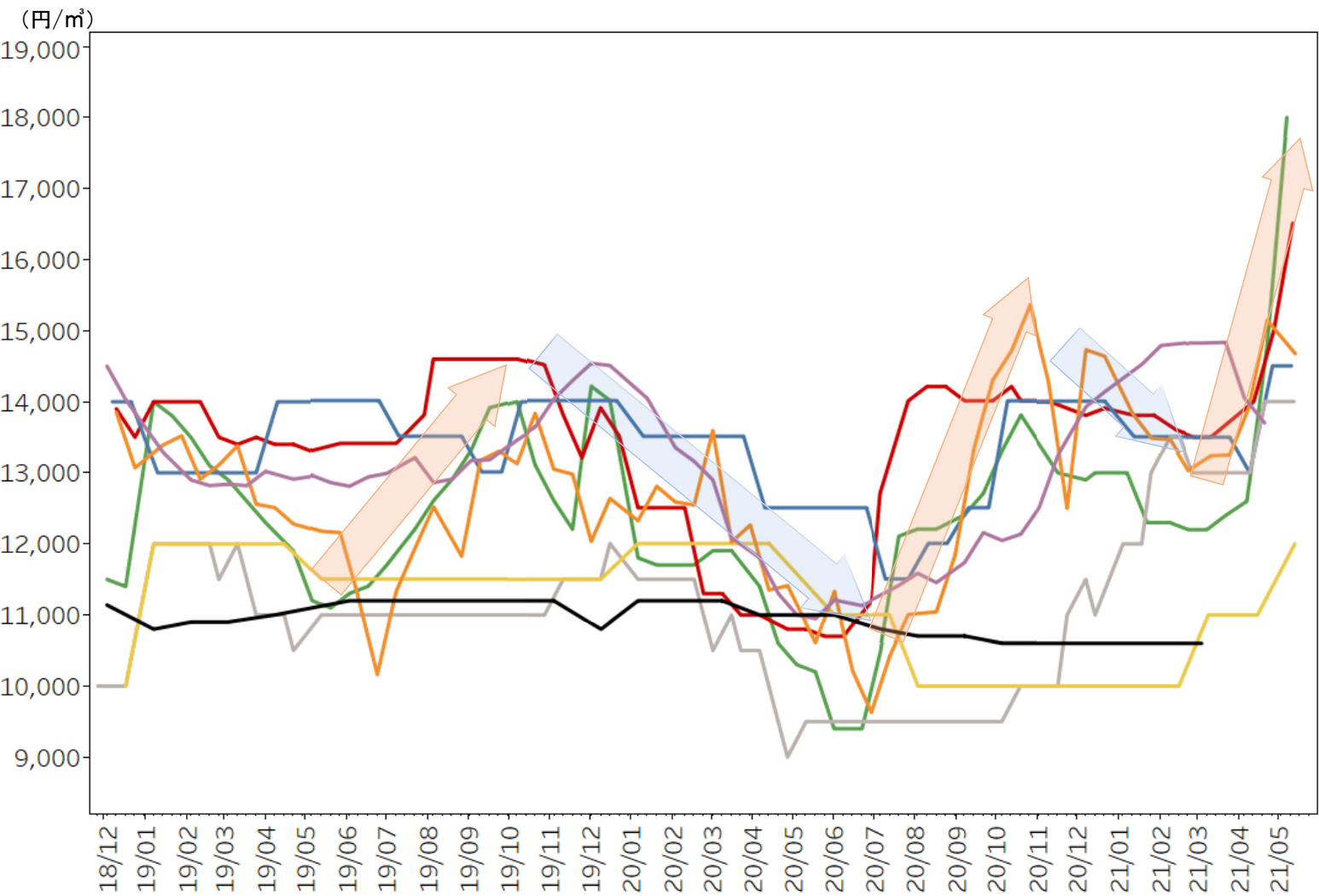
3 住宅着工戸数の動向

(1) 全国の住宅着工戸数

(2) 九州地区の住宅着工戸数

1 価格の動向 (1) 原木価格(原木市場・共販所)
ア スギ(全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (平成30年12月~)

- 令和2年6月頃の価格は、コロナ禍による需要減により例年よりも大きく低下したが、その後、価格が上向きに転換し、価格の面ではコロナの影響が出る以前まで回復。
- 令和3年に入ってから、例年であれば春から梅雨時期にかけて原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、上昇が見られる地域が多く、九州地域では価格が高騰している。
- 令和3年5月のスギ原木価格は、前年同期比9%から75%増となっている。



都道府県	R3年 5月※	前年 同期	前年 同期比
北海道	10,600	11,200	-5%
秋田県	13,700	11,300	21%
栃木県	14,670	10,610	38%
長野県	12,000	11,000	9%
岡山県	14,000	9,500	47%
高知県	14,500	12,500	16%
熊本県	16,500	10,800	53%
宮崎県	18,000	10,300	75%

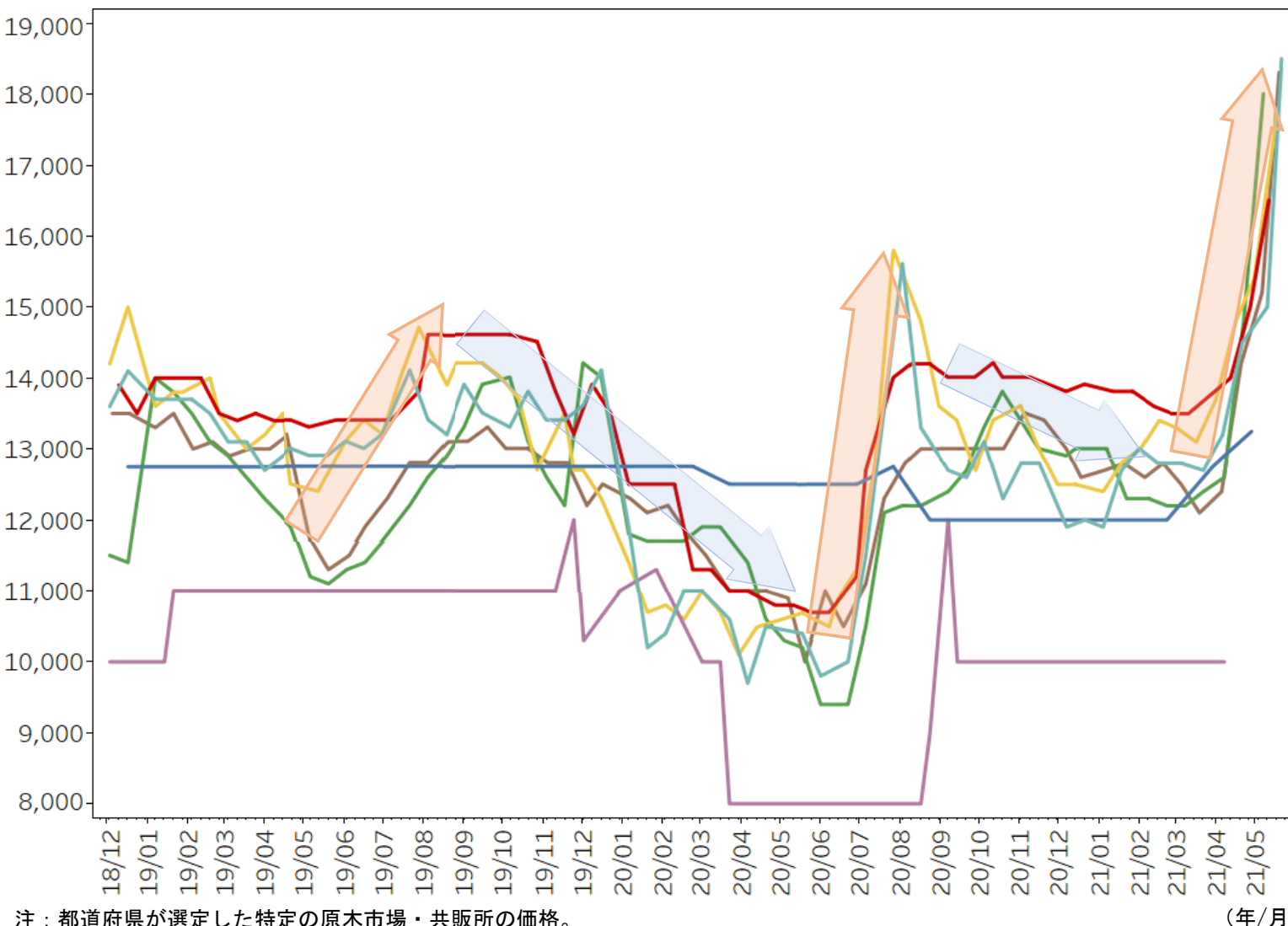
※令和3年5月における直近の値。ただし、北海道及び秋田県については、当該月の値がないため、3月及び4月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ（九州地区） 径24cm程度、長3.65～4.0m（平成30年12月～）

- 令和2年6月頃の価格は、コロナ禍による需要減により例年よりも大きく低下したが、その後、豪雨災害による出材減の影響も受け価格が上向きに転換し、価格の面ではコロナの影響が出る以前まで回復。
- 令和3年に入ってから、例年であれば原木価格が下落する時期にもかかわらず、4月以降、ほぼ全ての県で価格が高騰している。
- 令和3年5月末のスギ原木価格は、前年同期比6%から83%増となっている。

(円/㎡)



都道府県	R3年 5月※	前年 同期	前年 同期比
福岡県	18,500	10,400	78%
佐賀県	13,250	12,500	6%
長崎県	10,000	8,000	25%
熊本県	16,500	10,800	53%
大分県	17,800	10,690	67%
宮崎県	18,000	10,300	75%
鹿児島県	18,300	10,000	83%

※令和3年5月における直近の値。ただし、佐賀県及び長崎県については、当該月の値がないため、4月の値を使用。

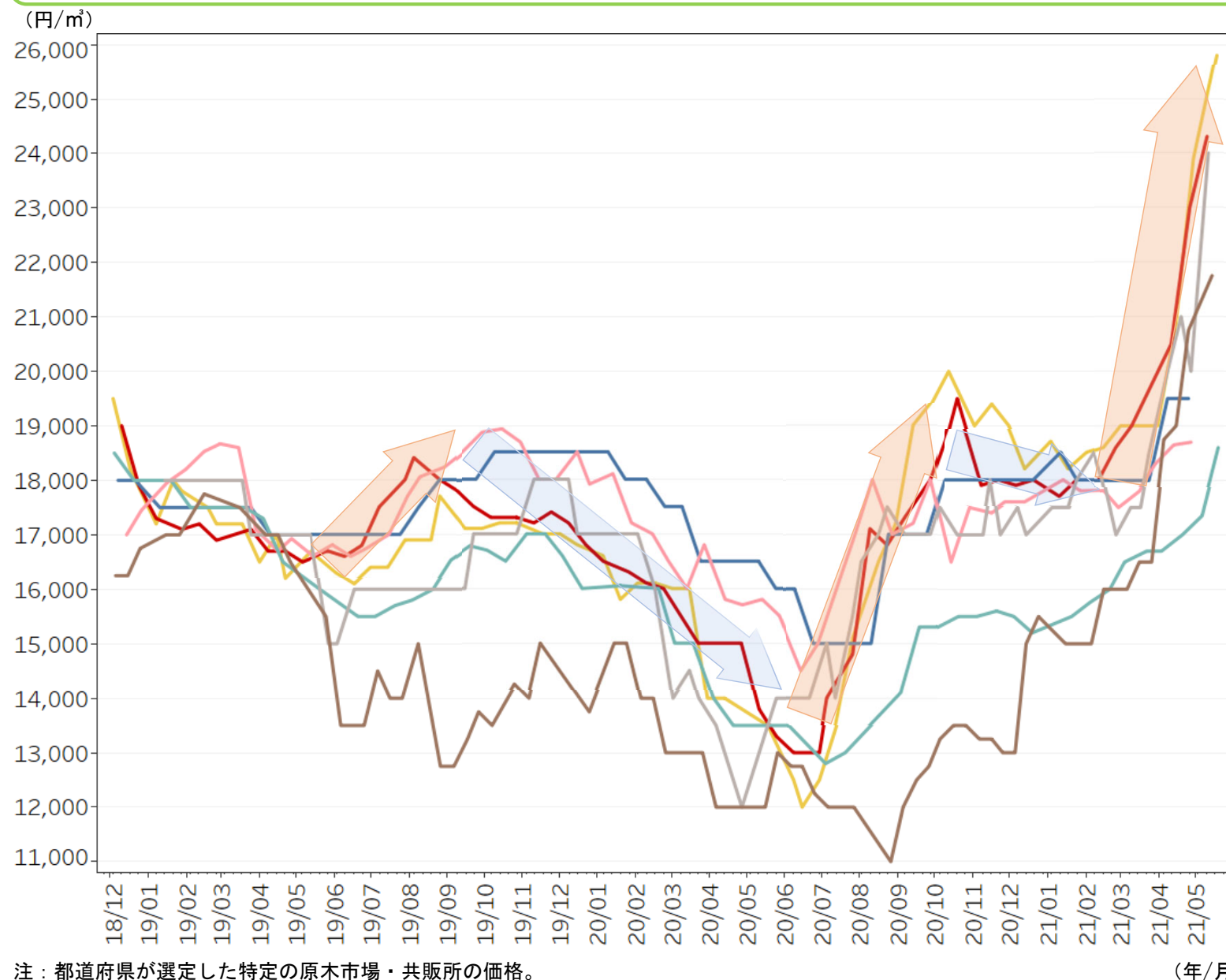
注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(年/月)

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（平成30年12月～）

- ・ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、令和2年6月頃の価格は例年以上に大きく低下したが、令和3年に入っからは、例年であれば原木価格が下落する時期にもかかわらず、全ての地域で上昇（一部の地域では高騰）している。
- ・令和3年5月のヒノキ原木価格は、前年同期比18%から91%増となっている。

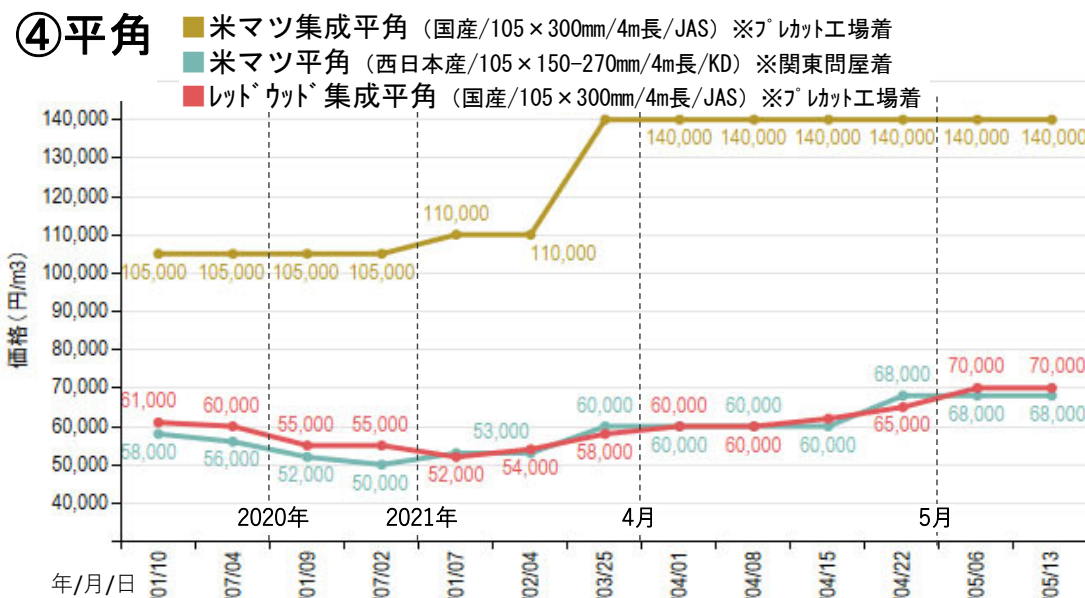
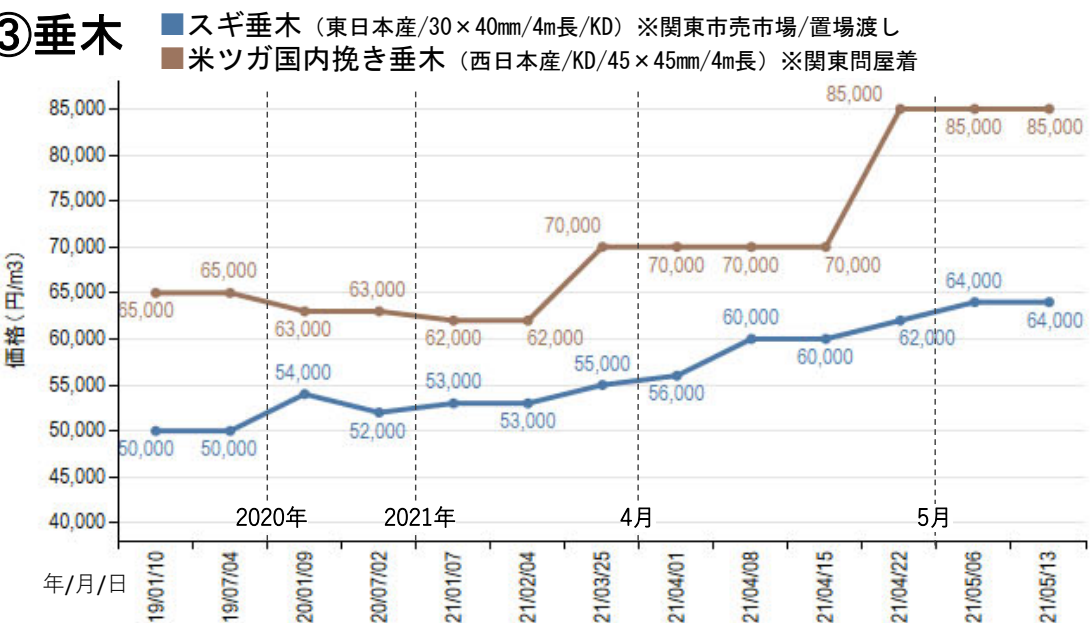
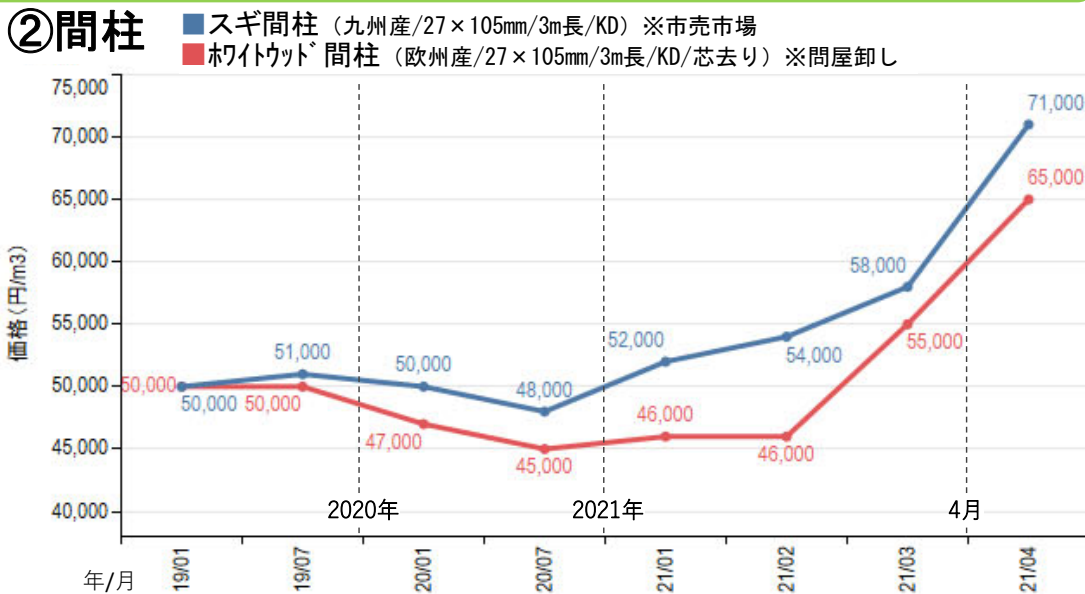
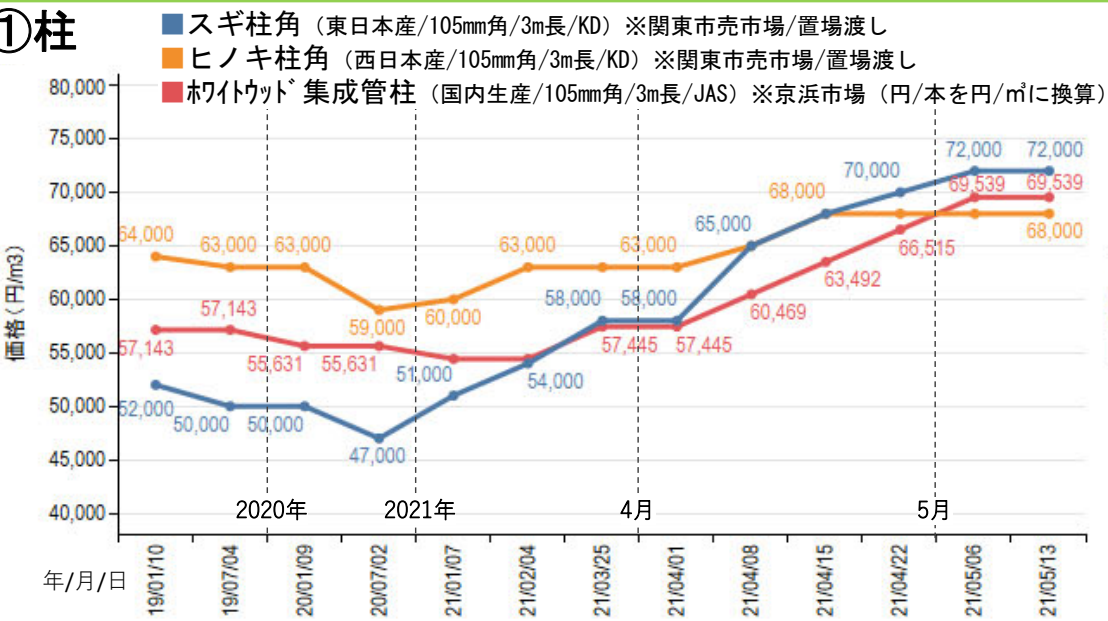


都道府県	R3年 5月※	前年 同期	前年 同期比
兵庫県	21,750	12,000	81%
岡山県	24,000	13,000	85%
広島県	18,600	13,500	38%
愛媛県	18,700	15,700	19%
高知県	19,500	16,500	18%
熊本県	24,300	13,800	76%
大分県	25,800	13,500	91%

※令和3年5月における直近の値。ただし愛媛県及び高知県については、当該月の値がないため、3月の値を使用。

(2) 製品価格

- 輸入材製品価格は、北米における住宅着工戸数の増加、中国の木材需要拡大、世界的なコンテナ不足による運送コストの増大等により高騰。
- 国産材の代替需要が発生し、国産材製品価格も上昇。

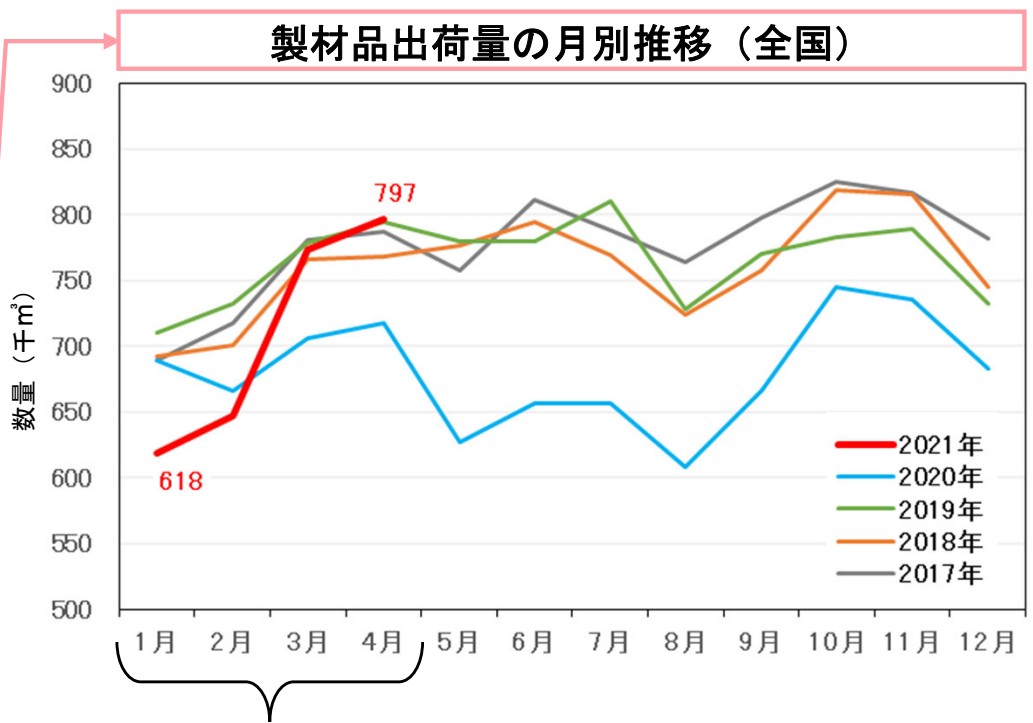
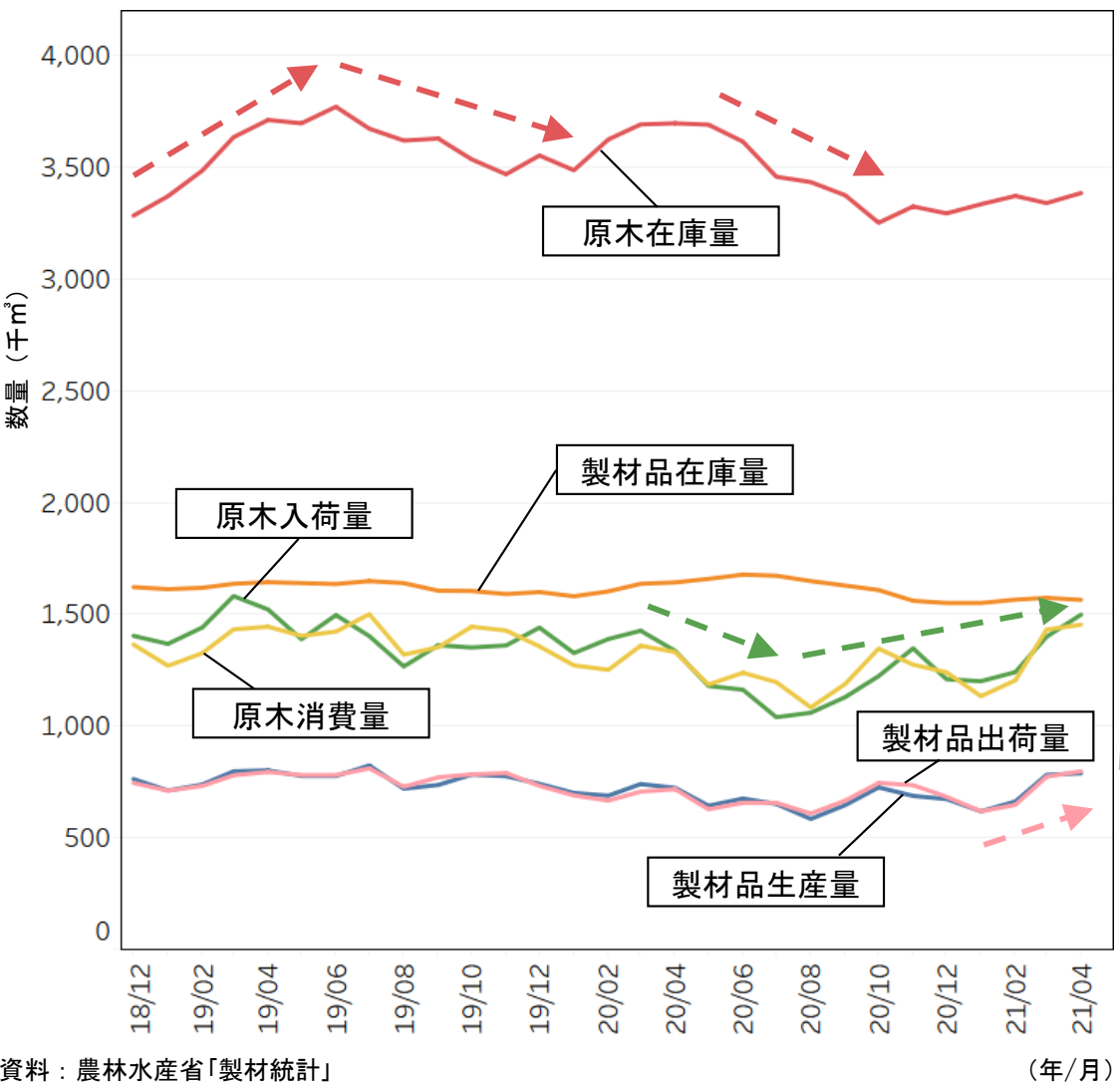


資料：①③④木材建材ウイクリー、②日刊木材新聞、

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- ・ 製材品の生産量及び出荷量は、令和3年1月から増加傾向。例年1～4月期は増加がみられるが、令和3年同期の出荷量は29%増と近年にない高い伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- ・ また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍による影響が表れ始めた前年同期を上回った。
- ・ 原木の入荷量及び消費量は、令和3年1月から増加傾向で、4月にはコロナ禍の影響がない前々年同期の水準に回復。

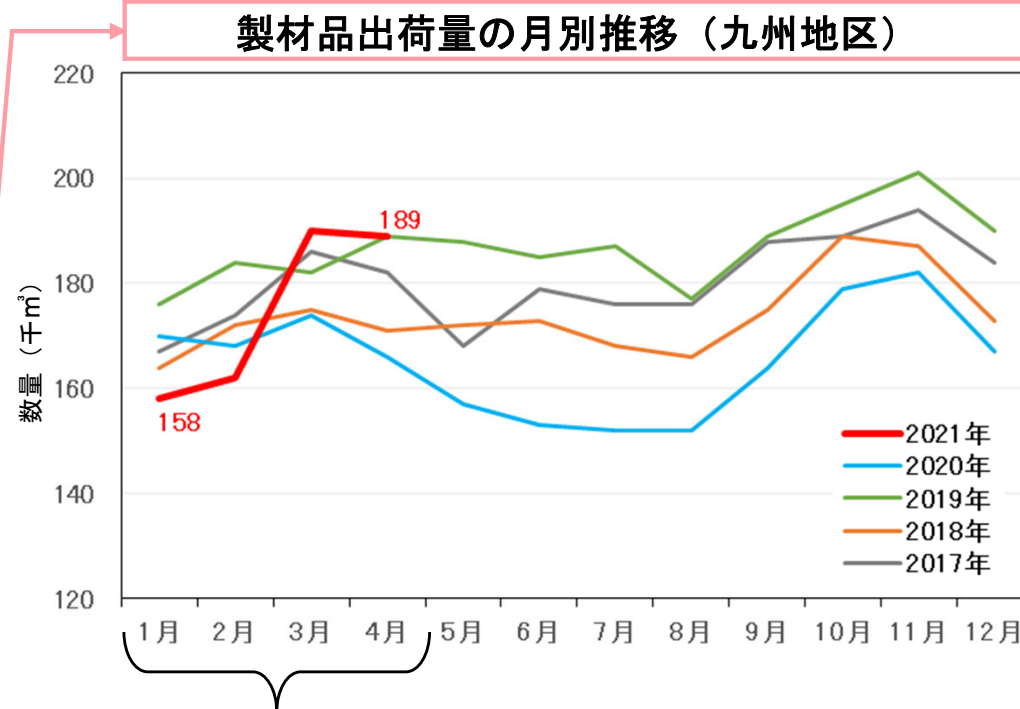
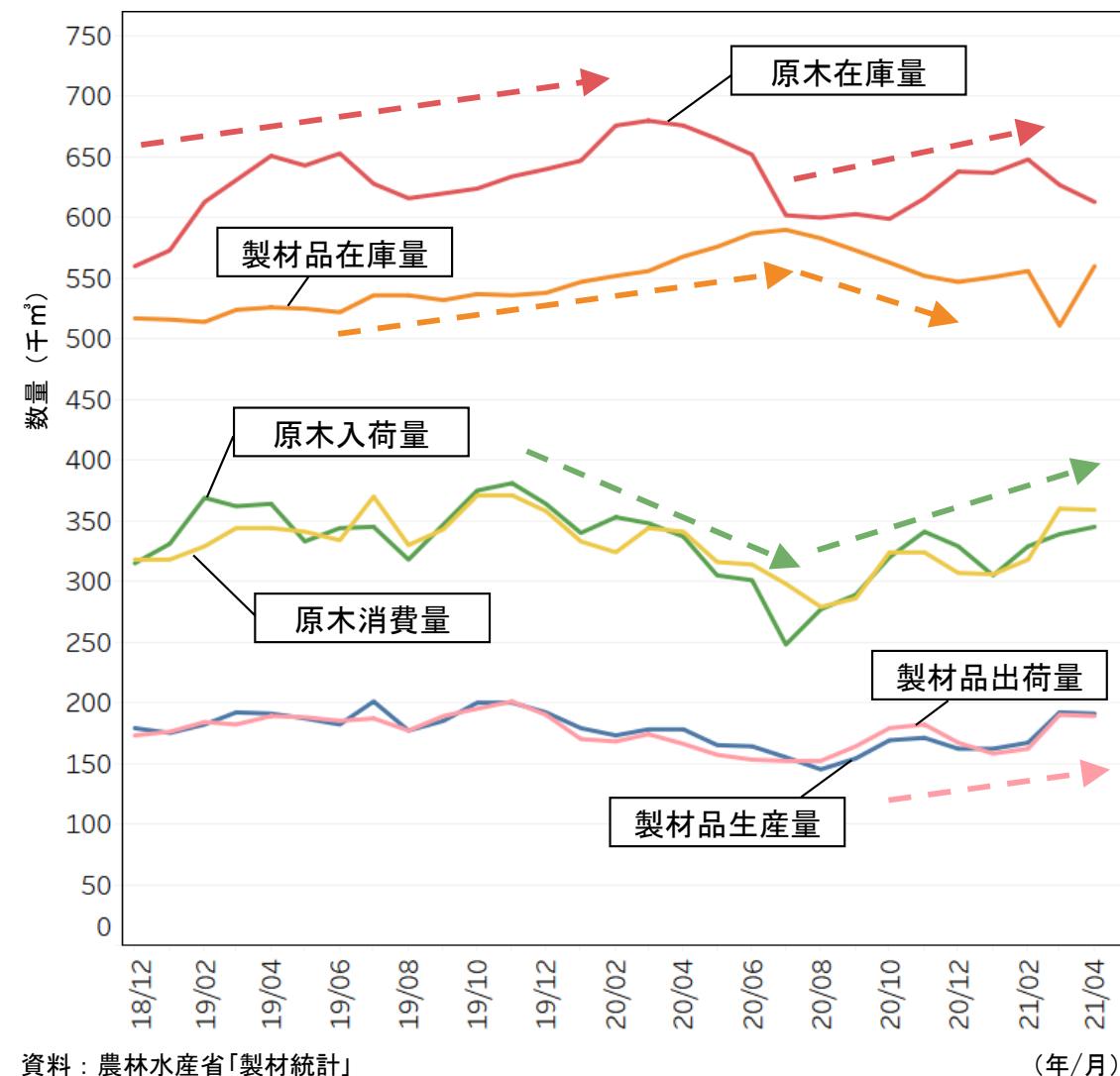


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～4月出荷量 伸び率	14%	11%	12%	4%	29%
1～4月出荷量 合計 (千m3)	2,975	2,927	3,015	2,778	2,835

資料：農林水産省「製材統計」

(1) 製材（九州地区）

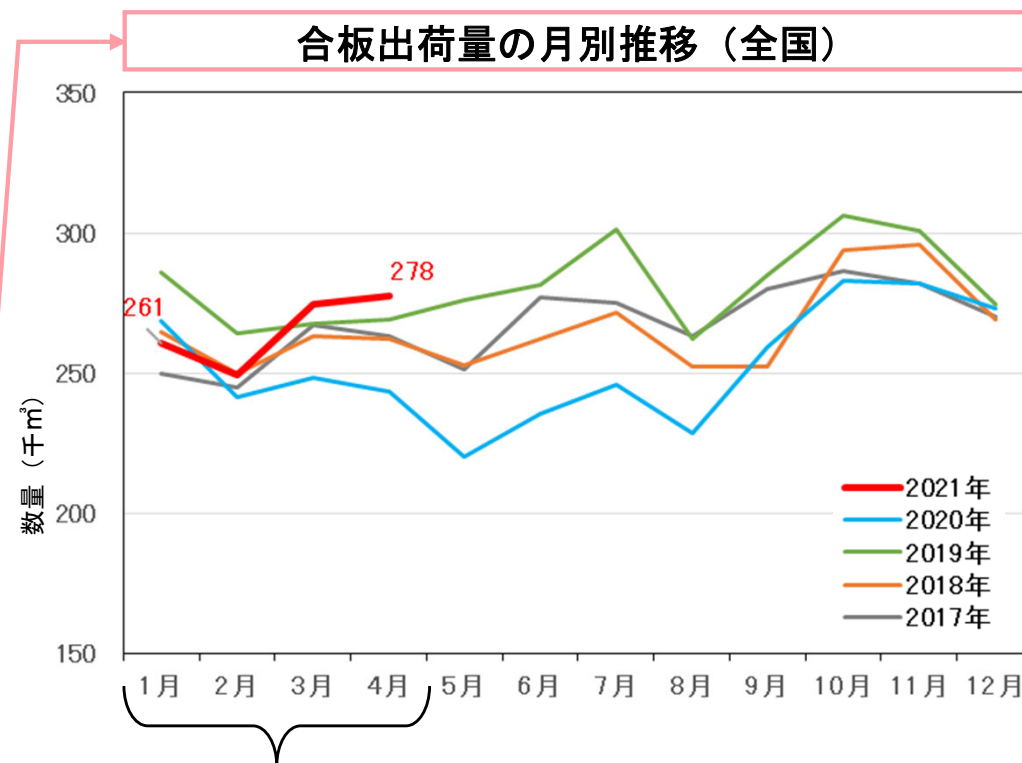
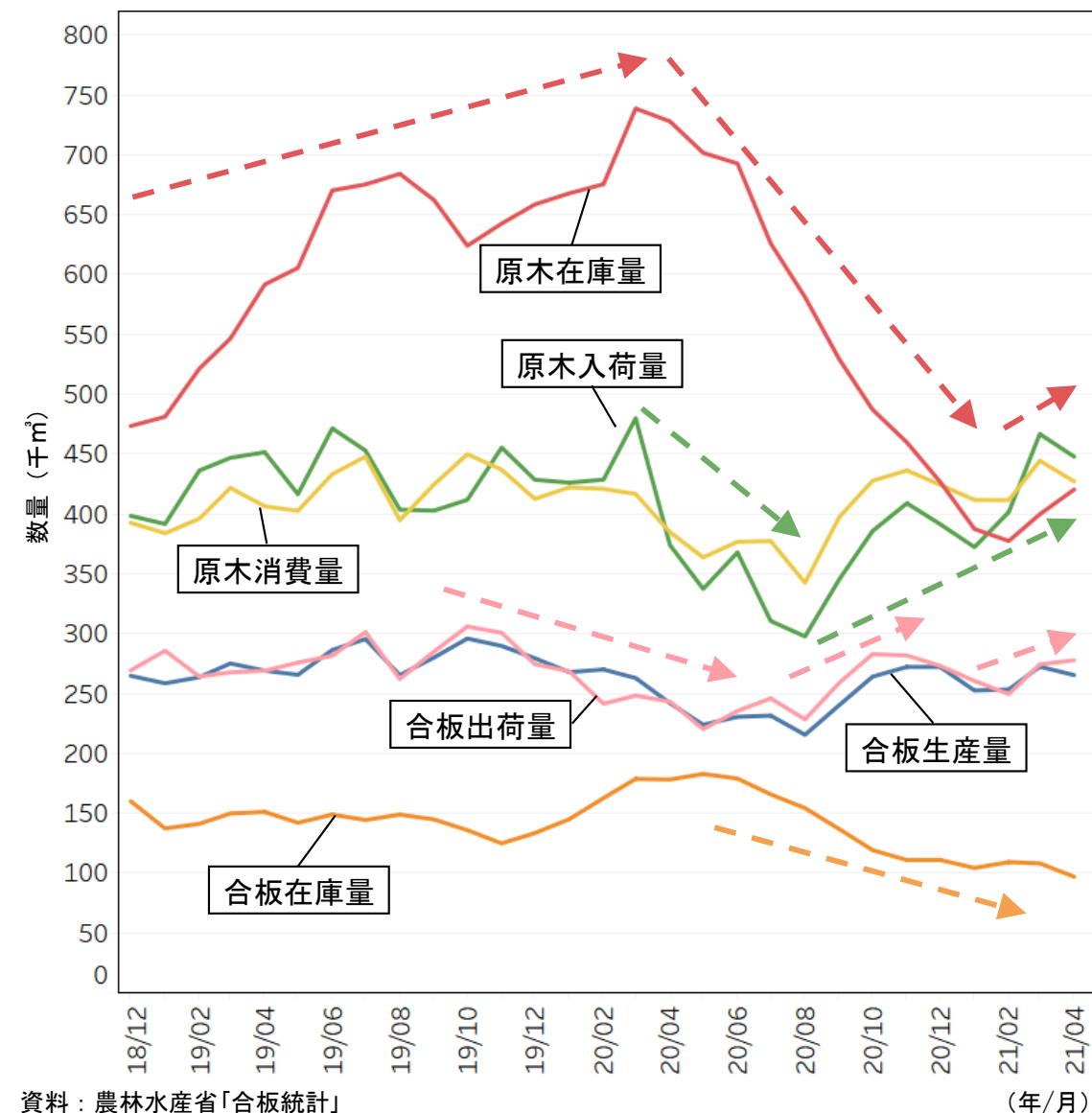
- 九州地区の製材品の生産量及び出荷量についても全国と同様に、令和3年1月から増加傾向。例年1～4月期は増加がみられるが、令和3年同期の出荷量は20%増と近年にない高い伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍による影響が表れ始めた前年同期を上回った。
- 原木の入荷量及び消費量は、令和3年1月から増加傾向で、4月にはコロナ禍の影響がない前々年同期の水準に回復。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～4月出荷量 伸び率	9%	4%	7%	-2%	20%
1～4月出荷量 合計(千m3)	709	682	731	678	699

(2) 合板（全国）

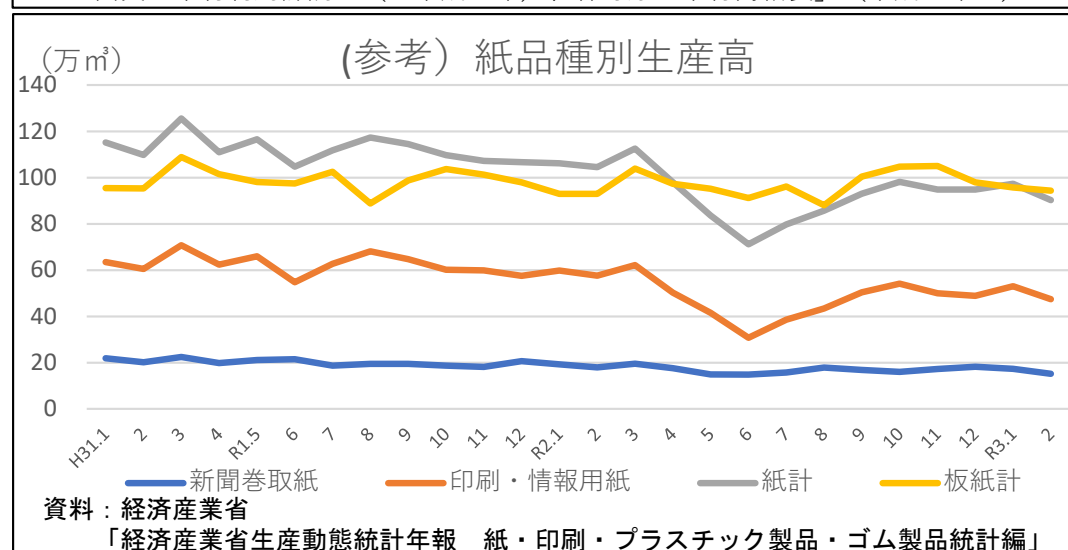
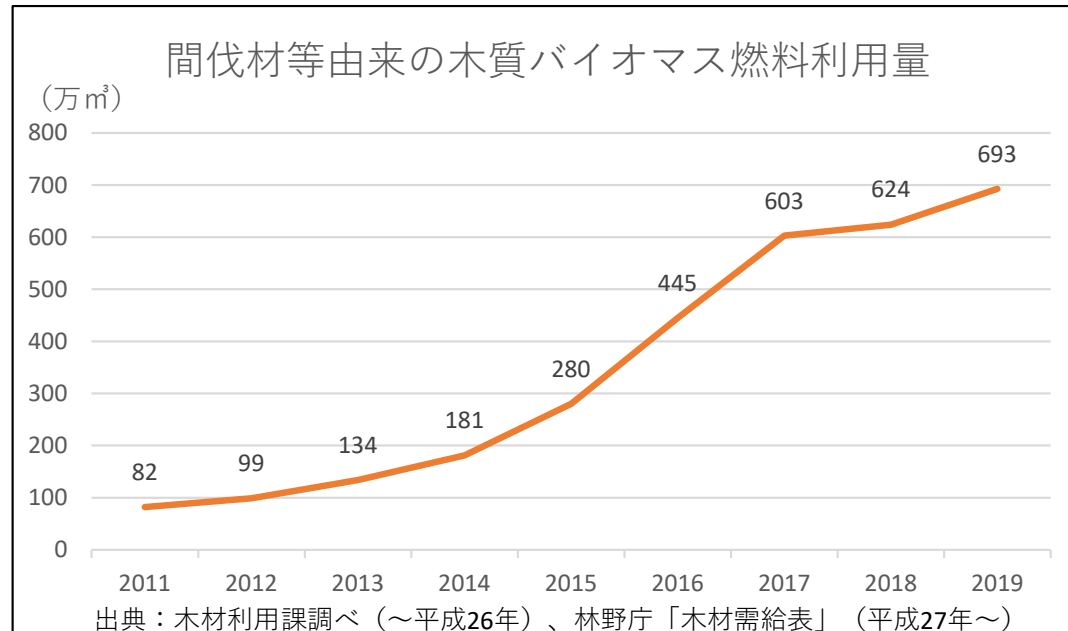
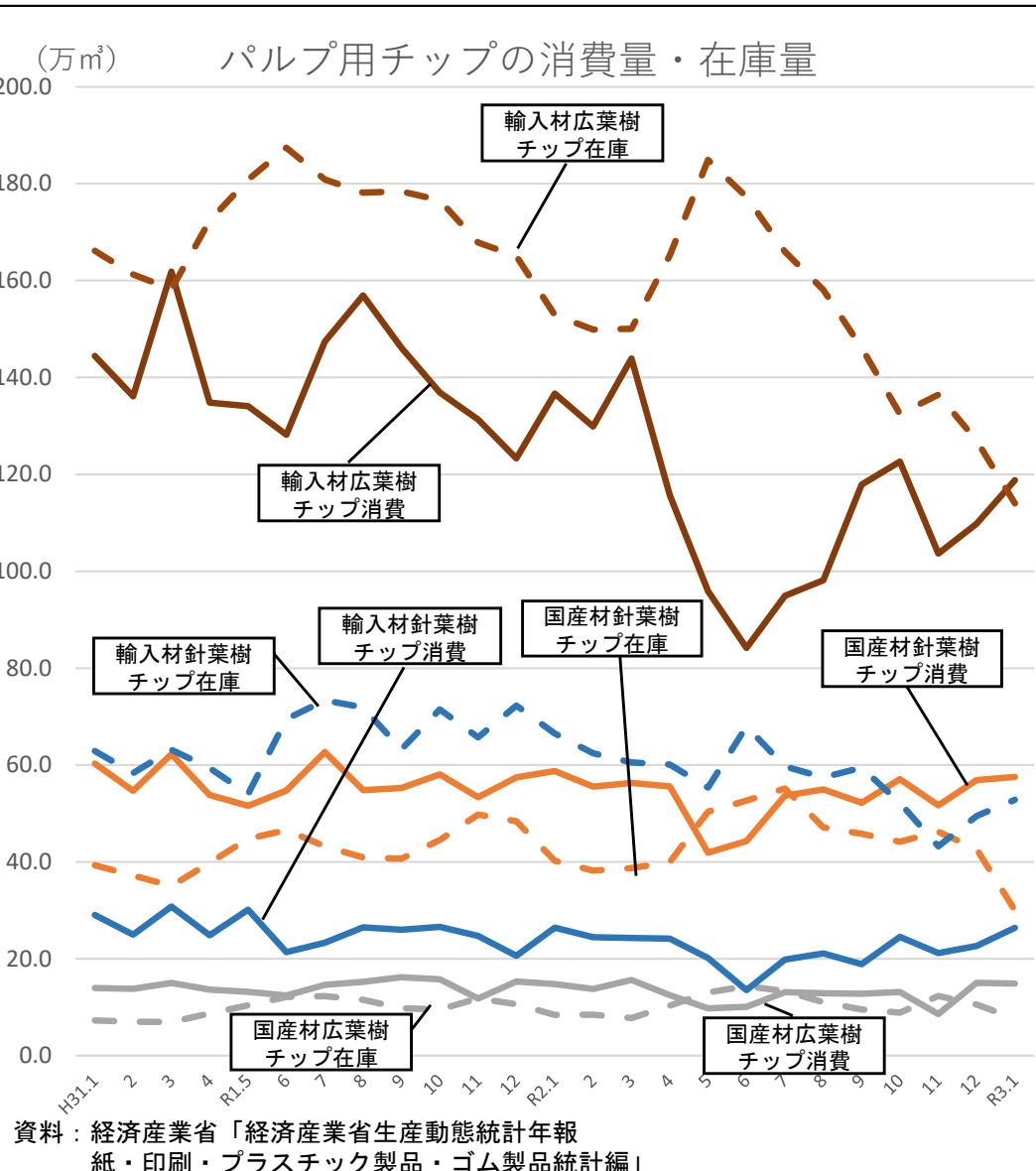
- 合板の生産量及び出荷量は、令和3年2月から増加傾向。1～4月期でみると直近3年間は減少傾向にあったが、令和3年同期の出荷量は7%増と近年にない伸び率を示しており、輸入材の代替需要への対応によるものと考えられる。
- また、この間の出荷量の合計は、コロナ禍以前と比較しても高い水準まで回復。
- 原木の入荷量及び消費量は、令和3年2月から増加傾向で、4月にやや減少するも、コロナ禍の影響がない前々年同期の水準に回復。原木の在庫量は、令和2年4月以降急激に減少していたが、令和3年3月から増加に転じた。



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1～4月出荷量 伸び率	5%	-1%	-6%	-9%	7%
1～4月出荷量 合計(千m ³)	1,025	1,040	1,087	1,002	1,062

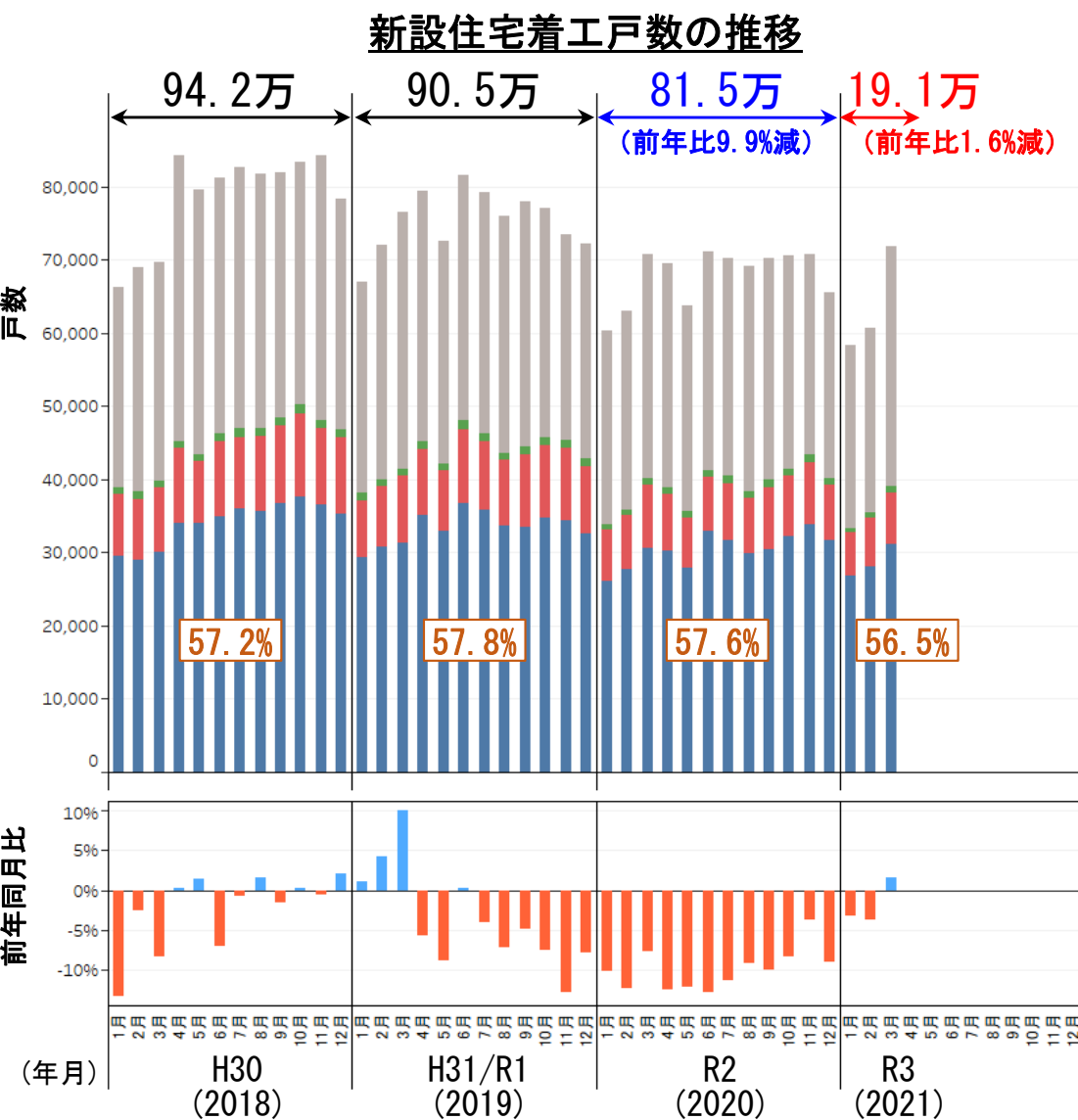
(3) チップ（全国）

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は令和2年4月から6月まで激減したが、その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、令和2年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。

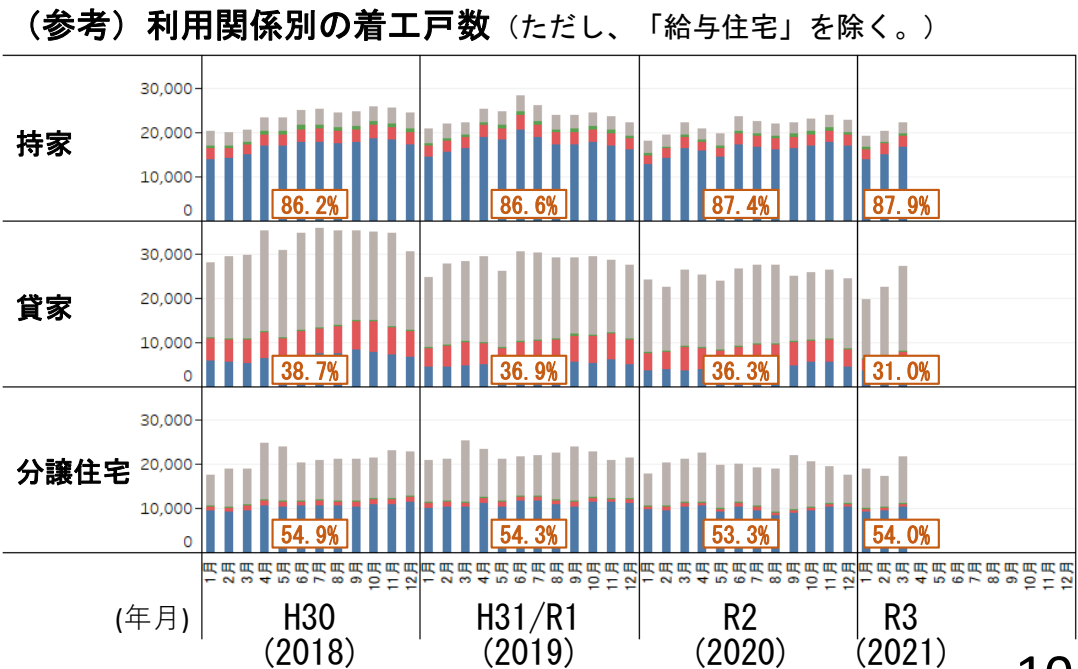


3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (平成30年1月～令和3年3月)

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）、このうち木造住宅は46.9万戸（同10.3%減）。
- 令和3年1～3月の新設住宅着工戸数は、19.1万戸（前年比1.6%減）、このうち木造住宅は10.8万戸（同1.8%減）。
- 令和2年は緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショック時ほどの落ち込み※は見られなかった。
（※平成21年の新設住宅着工戸数は前年比28%減となった。）



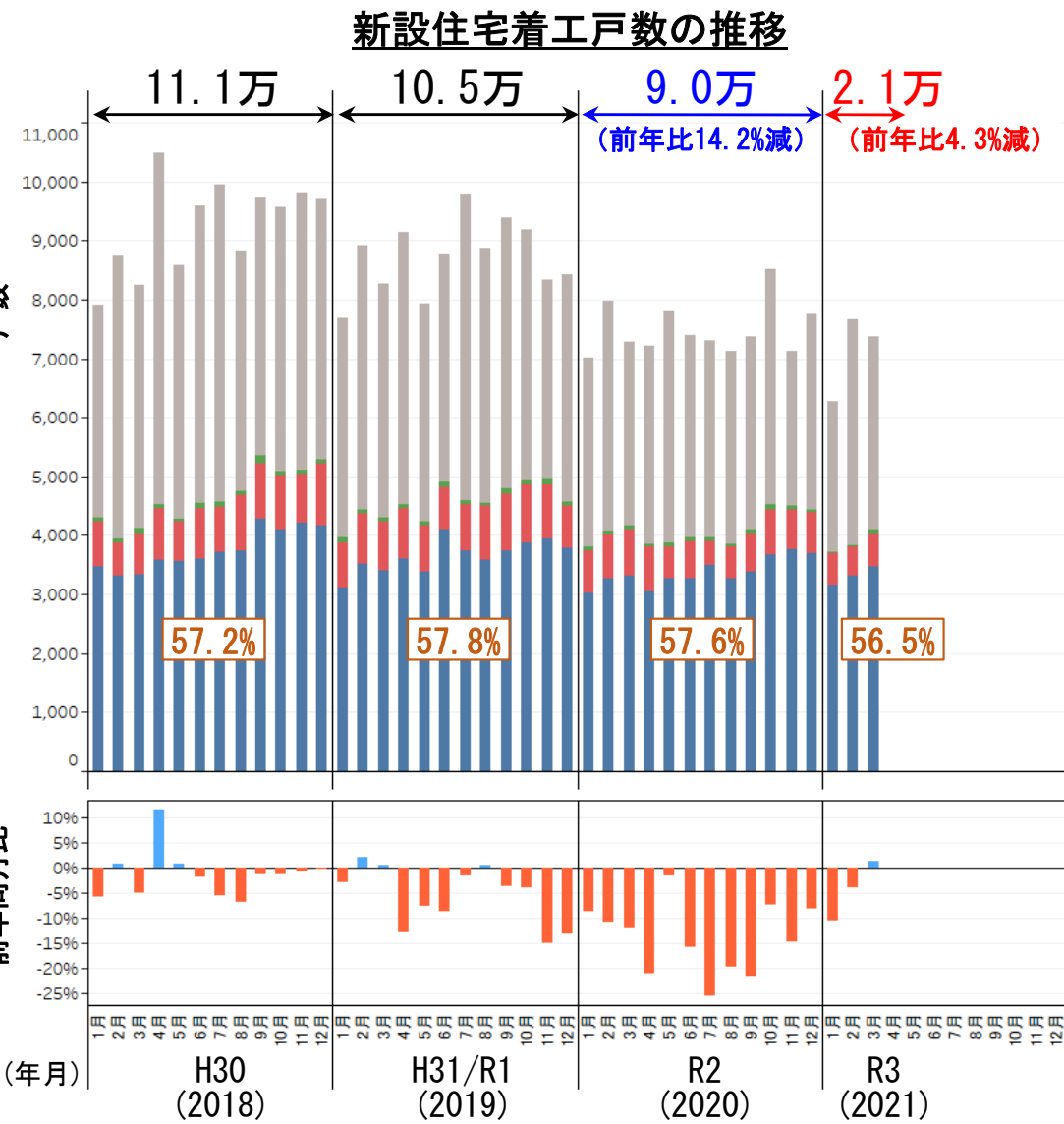
構造	R 3 年 1～3 月	前年 同期	前年 同期比	R 2 年 1～12月	前年比
■ 非木造	83,143	84,363	-1.4%	346,045	-9.4%
木造	107,856	109,812	-1.8%	469,295	-10.3%
■ 木質プレハブ	2,169	2,425	-10.6%	10,822	-10.6%
■ 2×4	19,537	22,966	-14.9%	93,009	-15.2%
■ 在来軸組	86,150	84,421	2.0%	365,464	-9.0%
計 (戸)	190,999	194,175	-1.6%	815,340	-9.9%
□ 木造率	56.5%			57.6%	



資料：国土交通省「住宅着工統計」

(2) 九州地区の住宅着工戸数（平成30年1月～令和3年3月）

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、9.0万戸（前年比14.2%減）、このうち木造住宅は4.9万戸（同10.3%減）。
- 令和3年1～3月の新設住宅着工戸数は、2.1万戸（前年比4.3%減）、このうち木造住宅は1.2万戸（同3.1%減）。



構造	R 3 年 1～3 月	前年 同期	前年 同期比	R 2 年 1～12月	前年比
■ 非木造	9,660	10,237	-5.6%	40,714	-18.4%
木造	11,662	12,035	-3.1%	49,148	-10.3%
■ 木質プレハブ	142	210	-32.4%	820	-11.3%
■ 2×4	1,581	2,227	-29.0%	7,860	-21.6%
■ 在来軸組	9,939	9,598	3.6%	40,468	-7.7%
計 (戸)	21,322	22,272	-4.3%	89,862	-14.2%
□ 木造率	54.7%			54.7%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

